

JIS K 7391:2008 試験法と粘弾性測定装置による粘弾性特性の差異について (第3報)

エヌ・ブイ・テック 井上 茂

第3報の報告内容は、以下のとおりである。

1. まえがき
2. JIS K 7391 はり試験法と DMA による粘弾性動特性試験
 - 2.1 JIS K 7391
 - 2.2 動的粘弾性測定装置(DMA)
3. 試験条件及び試験材料
 - 3.1 試験条件
 - 3.2 PVC の作製
 - 3.3 SH3400M, SH3400S の作製
 - 3.3.1 DMA 試験用材料の加工
 - 3.3.2 はり試験法用材料の作製
4. はり試験法及びDMA 試験法より得られた粘弾性動特性比較
 - 4.1 EVA の試験結果
 - 4.2 PVC の試験結果
 - 4.2.1 PVC1 について
 - (a) DMA の昇温速度の影響
 - (b) PVC1 の重量変化
 - (c) 瞬間接着剤の特性
 - (d) 可塑剤の影響
 - (e) 接着剤の影響
 - (f) 原因解析結果のまとめ
 - 4.2.2 PVC2 について
 - 4.2.3 PVC3 について
 - 4.2.4 考察
 - 4.3 SH3400M, SH3400S の試験結果
 - 4.3.1 SH3400M について
 - 4.3.2 SH3400S について
5. まとめ
6. あとがき

参考文献